

琉球新報

2007年(平成19年)

7月5日 木曜日

発行所 琉球新報社
 〒900-8525 那覇市久原5-2-5
 〒900-8566 那覇市中央3-8-6
 〒900-1515 那覇市中央1-15-5
 ©琉球新報社2007年

THE RYUKYU SHIMPO

夕刊

第35375号

提供申込み内付室
 098 (865) 5154
 情報申し込み内付室
 (0120) 395069
 やお申し案内付室
 (0120) 415059
 情の申案受
 098 (865) 5256
 ニュースのお申受
 098 (865) 5111
 購読の申込受
 098 (865) 5656
 本社の事務受
 098 (865) 5656

いもと小児科

泡瀬サンエー食品館うら

■受付 / 平日 午後7時まで
 木・土 午後6時まで

☎(938)6112

転倒死 20年後に倍増

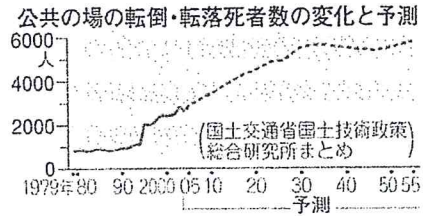
高齢化で5000人超に

国交省推計

街路や商業施設などの公共の場所で転んだら転落したりしたことが原因で亡くなる人が人口の高齢化に伴って増え、二〇二七年には〇四年の二倍近い年間五千人を超えるとの推計を、国土交通省国土技術政策総合研究所（茨城県つくば市）が五日までにまとめた。厚生労働省がつくる人口動態統計などを基に、公共空間の安全対策が現在と変わらないう前提で解析した。同研究所の河野守建築品質研究官は「転倒や転落の要因は身体面、環境面さまざまだが、死者を減らすには建造物側の安全性も向上させなければならない」と話している。

公共の場、安全性課題

人口動態統計は、市区き、死者の年齢や死因、町村への届け出に基づき、事故が起きた場所を分類している。研究では、家庭や工事現場などでなく不特定多数の人が使う場所を公共空間とみなし、一九七九年から二〇〇四年までの転倒・転落死者数を解析した。その結果、公共の場所での転倒・転落死は、二〇二五年間ほぼ一貫して増加している。研究では、六段階の年齢層を設定して、十万人当たりの死亡率をそれぞれ算出すると、年齢層が上がるほど高くなり、八十歳以上の死亡率は十五・四四歳の百倍以上の約二十九人となった。さらに、各年齢層の死亡率が将来も変わらないと仮定し、厚労省の将来推計人口に当てはめて五五年までの年間死者数を予測した。すると、高齢者人口の増加に伴って年々増加し、二七年には五千人を突破。五五年には約五千八百人に達し、うち六十五歳以上が約96%を占めた。



14年冬季五輪はソチ

ロシア初 決選投票で平昌逆転

【クアテマラ市4日共同】小林伸輔）国際オリピック委員会（IOC）は四日、クアテマラ市で開いた第一九次総会で、三都市が立候補したクワ夏季大会向けで、冬

「ト、ソチ（ロシア）を選んだ。旧ソ連時代を意味する。一六年度大会開催を自指す東京の招致活動への影響が指摘されていたが、欧州の都市が選ばれたこと

IOC委員による投票では、一回目は平昌が36票、ソチ34票、ザルツァーク・オーストリア、25票と過半数を獲得した都市がなく、最下位のザルツァーク・オーストリアが、平昌は47票だった。IOCのロゲ会長は「三都市とも質の高い計画で、予想したおりの小さな差になった。政府の支援はIOCに安心を与えてくれる」と述べた。

開催計画では黒海沿岸部でスケートなどの氷上競技、約50キロ離れた内陸の山岳部でスキーなどの雪の競技を実施。五輪開催とともに地域のインフラ整備を一気に進める典型